

【 政策名 】

【 施策名 】

【 事業名 】

【 事業費 】

(千円)

戦略3
観光・交流戦略

目指す姿1
「何度でも訪れたいくなるあきた」の創出

施策関連事業	1,056,853
インバウンド拡大に向けた誘客促進事業	360,916

目指す姿2
「美酒・美食のあきた」の創造

(千円)

目指す姿3
文化芸術の力による魅力ある地域の創生

施策関連事業	96,865
文化の継承・創造推進事業	38,424

目指す姿4
活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現

目指す姿5
国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築

政策評価（令和7年度）

政策評価調書

戦略3 観光・交流戦略					
幹事部局名	観光文化スポーツ部	評価者	企画振興部長	評価確定日	令和7年7月31日

1 戦略のねらい

価値観の変化と地方への関心の高まりを好機と捉え、食や文化、スポーツをはじめとする多様な分野と観光との連携・融合により、交流人口の更なる拡大を図ります。

2 施策評価の結果

施策	施策評価の結果			
	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
目指す姿1 「何度でも訪れたくなるあきた」の創出	b	b	c	
目指す姿2 「美酒・美食のあきた」の創造	a	a	a	
目指す姿3 文化芸術の力による魅力ある地域の創生	a	a	a	
目指す姿4 活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現	c	e	e	
目指す姿5 国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築	c	d	d	

※施策評価の結果:a、b、c、d、eの5段階で判定した結果

3 総合評価結果と評価理由

総合評価	評価理由
C	施策評価の結果を基にした定量的評価が「C相当（平均点2.20）」であることから、総合評価は「C」とする。

※定量的評価: 施策評価結果を点数化して平均点を算出し、A相当、B相当、C相当、D相当、E相当の5段階に判定する。

・施策評価結果の配点 a:4点、b:3点、c:2点、d:1点、e:0点

・判定基準(平均点) A相当:4点、B相当:3点以上4点未満、C相当:2点以上3点未満、D相当:1点以上2点未満、E相当:1点未満

※総合評価: 定量的評価を基本とし、定性的評価を考慮する必要がある場合には、総合的な観点からA、B、C、D、Eの5段階に判定する。

4 主な課題と今後の対応方針

目指す姿	課題（戦略の目標達成に向けた課題など）	今後の対応方針（重点的・優先的に取り組むべきこと）
1	多様化する旅行ニーズに対応したストレスフリーな受入態勢の整備が不十分である。 など	バリアフリー化を含む幅広い取組を対象とする宿泊施設の高付加価値化等を目的とした補助事業等により、多様なニーズに応じた受入態勢整備を支援する。また、観光施設のバリアフリー調査や高齢者モニターツアーを開催するなどバリアフリー観光の周知を図るほか、観光地・宿泊施設等に係る情報発信及び電話相談等により安全・安心に旅ができるよう支援する。 など
2	煩雑な輸出手続や社内における輸出営業の専任人材の不足等が新たに輸出に取り組む事業者の障壁となっているほか、マッチング機会の創出など現地市場参入に向けた土台づくりに関する負担軽減が求められている。 など	県内食品事業者間の連携による、海外への販路拡大に取り組む自走組織の立ち上げや輸出障壁の解消に向けた先導的な取組を推進するとともに、こうした動きの横展開を図る。 など
3	文化芸術活動を行う個人や団体が固定化しており、世代や活動地域にも偏りが生じている。 など	優れた作品や活動に対する顕彰、文化団体が行う活動への助成などにより、幅広い世代や地域の県民が文化芸術活動に取り組みやすい環境づくりを進める。 など
4	働く世代や子育て世代の女性において、「仕事や家事が忙しいから」との理由により運動実施率が低い傾向にある。 など	職場や家庭で手軽に実践できる運動教室の開催や、参加型スポーツイベントの実施、運動プログラムの動画配信等の周知に努め、いつでも、どこでも、気軽に運動ができる環境整備に取り組んでいく。 など
5	コロナ禍により落ち込んだフェリー利用者の完全な回復には至っていない。 など	トラック業界における2024年問題を受けてモーダルシフトに取り組む事業者を対象に、助成制度を実施するなど、需要を的確に捉え利用増加につなげていく。また、旅行事業者への助成制度のほか、メディアや出前講座等の場でフェリー利用の魅力をPRし、貨物・旅客利用の推進を図る。 など

※課題と今後の対応方針の各施策の詳細については、施策評価調書を参照

5 政策評価委員会の意見

自己評価の「 」をもって妥当とする。

施策評価（令和7年度）

戦略3 観光・交流戦略			
目指す姿1 「何度でも訪れたいくなるあきた」の創出			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	誘客推進課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	令和7年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

時代の流れや価値観等の変化に柔軟に対応し、裾野の広い観光産業の稼ぐ力を引き出すとともに、旅行者が何度でも訪れたいくなる魅力的な秋田の観光の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性②】 「アキタファン」へのアクセス数(千件)	目標			1,500	1,620	1,740	1,860	172.9%	4	
		実績	—	—	2,108	2,737	3,009				
	出典: 県調べ	達成率			140.5%	169.0%	172.9%				
②	【施策の方向性②~④】 観光地点等入込客数(延べ人数) (千人)	目標			28,000	35,000	36,500	38,000	84.4%	2	
		実績	35,270	18,360	25,275	28,354	30,807				
	出典: 県「秋田県観光統計」	達成率			90.3%	81.0%	84.4%				
③	【施策の方向性①、③、④】 延べ宿泊者数(千人泊)	目標			2,900	3,300	3,700	3,800	85.1%	2	
		実績	3,654	2,546	2,772	3,001	3,150				
	出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」	達成率			95.6%	90.9%	85.1%				
④	【施策の方向性⑤】 外国人延べ宿泊者数(人泊)	目標			10,000	20,000	35,000	70,000	341.7%	4	
		実績	139,400	25,380	16,280	95,600	119,610				
	出典: 観光庁「宿泊旅行統計調査」	達成率			162.8%	478.0%	341.7%				

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 \geq 100% 3点: 100% $>$ 達成率 \geq 90% 2点: 90% $>$ 達成率 \geq 80%
1点: 80% $>$ 達成率 \geq 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
3.00 (c相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 2個 = 4点
	合計 12点 ÷ 4個(判明済み指標) = 3.00

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 自立した稼ぐ観光エリアの形成】

- 観光業の生産性向上を図るため、宿泊サービスの高付加価値化に向けた施設整備(13件)や、デジタル技術の活用による経営の効率化に向けたシステム導入(5件)を支援した。

【施策の方向性② ターゲットの的確な把握と効果的な誘客プロモーションの展開】

- データに基づいた観光戦略の展開に向けて、「秋田県観光DMP」を管理運営し、データ提供に協力する宿泊事業者を92施設まで拡大したほか、大館市、横手市、鹿角市等の観光地域づくり法人と連携し、DMPのデータを活用したエリアマーケティングの実証を実施し、県内の観光業関係者に横展開した。

【施策の方向性③ 時代の変化を捉えた秋田ならではのツーリズムの推進】

- 世界自然遺産を有する1都1道4県が連携し、世界自然遺産を活用した共同ウェブサイト等によるPR及び商品造成の促進や森吉山県立自然公園を中心とするファムツアー(4社7人)及びプロモーションを実施したほか、白神山地の魅力を来訪者に伝えるとともに保全活動を担う「あきた白神認定ガイド」のスキルアップ研修を実施(参加者数37人)した。また、白神山地エリアで体験可能なアクティビティ等の情報をまとめたデータベースサイトを構築した。
- 自然公園利用者の安全性や快適性の向上を図るため、鳥海国定公園「法体の滝園地吊橋」等の施設改修を4か所実施した。

【施策の方向性④ 旅行者の多様なニーズに応じた受入態勢の整備】

- バリアフリー観光を推進するため、観光施設のバリアフリー調査や高齢者モニターツアーを実施した。
- 観光案内所のコンシェルジュ機能を強化するワークショップ(2回)や、観光関連事業者のホスピタリティ向上セミナー(2回)を実施した。

【施策の方向性⑤ 戦略的なインバウンド誘客の推進】

- 海外での本県の認知度向上を図るため、SNSや現地イベント等で情報発信を行った結果、令和6年度の各市場向けのSNS等のリーチ数が15,166,285となった。
- 令和5年12月に台湾チャーター便が就航し、令和6年度は延べ24,671人(うち台湾人等が21,431人)が利用した。
- 令和5年3月に国際クルーズの受入を再開し、27回の寄港受入を行ったほか、今後の寄港の継続化に向けて海外船社の関係者を招聘した。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
C	成果指標の達成率を基にした定量的評価は3.00で「c相当」であることから、総合評価は「c」とする。
	【定性的評価として考慮した点】

4 県民意識調査の結果

質問文	秋田の魅力が向上し、国内外から観光誘客が進んでいる。					
満足度	調査年度	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	12.9%	14.9%	11.8%		△3.1
	十分 (5点)	1.3%	1.6%	1.3%		△0.3
	おおむね十分 (4点)	11.6%	13.3%	10.5%		△2.8
	ふつう (3点)	39.1%	31.7%	27.4%		△4.3
	否定的意見	37.6%	46.2%	54.9%		+8.7
	やや不十分 (2点)	21.8%	26.0%	31.0%		+5.0
	不十分 (1点)	15.8%	20.2%	23.9%		+3.7
	わからない・無回答	10.3%	7.1%	5.8%		△1.3
平均点		2.56	2.46	2.30		△0.16

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光産業は労働生産性が低いほか、人材不足が生じている。 ○ 観光産業において、観光消費額の拡大に向けた「観光で稼ぐ」観光地経営の取組が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宿泊施設の経営力強化に資する改修等の支援やデジタル技術の活用のワークショップなどにより労働生産性の向上を図るとともに、職場環境の改善や女性活躍推進のセミナーなどにより観光人材の定着・確保に向けた取組を進める。 ○ 既存の観光資源の磨き上げに加え、各DMOと連携しアウトドアアクティビティなど観光客への訴求力の高い観光コンテンツづくりに力を入れるほか、観光と「食・文化・スポーツ」との連携した取組や旅行者の多様なニーズに対応しながら観光産業の収益力の向上を図る。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋田県観光DMPのデータの量が充実しておらず分析の精度に向上の余地があるほか、県、DMO及び宿泊事業者におけるデータ分析のスキルや分析結果を実際の取組に生かすノウハウが不足している。 ○ デジタルマーケティングによって把握された、本県に関心の高いターゲット層(ペルソナ)をリピーターとして取り込む施策やファン獲得に向けた取組が不十分であるほか、ペルソナ以外にも刺さるコンテンツの検証が不足しており、属性毎のニーズに応じた情報発信ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ データ量の充実に向け、データ提供者である宿泊事業者の参加拡大を図るとともに、関係者のデータ活用技術の向上のため、データ活用マニュアルを作成する等の支援を行う。 ○ GoogleやYahoo!等のウェブ広告を活用したデジタルマーケティングにより顧客層のニーズを検証し、効果的なプロモーションによりリピーターの獲得やグリーンシーズンの誘客に取り組む。
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ ライフスタイルの変化等により旅行形態やニーズが多様化しているものの、本県の特徴を生かしたコンテンツが不足している。 ○ 自然公園内の環境の保全や公園利用者の安全性・快適性の向上を図るため、市町村からの要望を受けて歩道や駐車場、公衆トイレ等の整備を行っているが、要望箇所が多く、全てに対応できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化した旅行形態に対応するために、秋田を代表する世界遺産や国指定重要無形民俗文化財等の多様な自然・文化の魅力を最大限PRするほか、洋上風力発電などの新たな観光資源を活用した受入態勢の整備に係る市町村等の取組の支援等を図る。また、令和6年度に構築した世界自然遺産「白神山地」体験プログラム等データベースサイトの周知を図るとともに、旅行商品の造成等への利用に繋げるため、情報発信を強化する。 ○ 年々施設の老朽化が進んでいるが、国の交付金も活用し、優先度の高いものから順次整備していく。
④	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様化する旅行ニーズに対応したストレスフリーな受入態勢の整備が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バリアフリー化を含む幅広い取組を対象とする宿泊施設の高付加価値化等を目的とした補助事業等により、多様なニーズに応じた受入態勢整備を支援する。また、観光施設のバリアフリー調査や高齢者モニターツアーを開催するなどバリアフリー観光の周知を図るほか、観光地・宿泊施設等に係る情報発信及び電話相談等により安全・安心に旅ができるよう支援する。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンド需要の更なる増加が見込まれている中、クルーズ船の誘致などに向けた他都道府県との競争が激化している。 ○ 台湾チャーター便の就航により、秋田空港を利用する台湾人旅行者が増加しているが、空港内や二次交通への案内が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ インバウンド需要の増加に伴い、クルーズ船寄港回数も増加していることから、市場特性に応じた情報発信を行うとともに、県内自治体、民間事業者等との連携により、クルーズ船の継続的な寄港を維持し、海外からの誘客を促進する。 ○ 秋田空港内に通訳兼案内担当を配置し施設案内・誘導を行うほか、施設案内や二次交通案内看板の表示を分かりやすくすることで、台湾人旅行者の満足度の向上を図る。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「 」をもって妥当とする。

事業評価調査(目的設定、中間評価、事後評価)

(評価年度:令和7年度)

政策	3 観光・交流戦略			
目指す姿	1 「何度でも訪れたいくなるあきた」の創出			
施策の方向性	⑤ 戦略的なインバウンド誘客の推進			
事業名	インバウンド拡大に向けた誘客促進事業	事業年度	R6 R7	年度～ 年度
部局名	観光文化スポーツ部	課室名	誘客推進課	
チーム名	国際誘客チーム			

1 事業実施の背景及び目的

インバウンド誘客の拡大に向け、台湾便の安定的な運航や利用促進を図るとともに、タイや欧州のほか、冬季誘客が期待できる国・地域における情報発信を強化する。

2 事業概要及び財源

(単位:千円)

	事業内訳	概要	令和7年度 予算額	令和6年度 決算(見込)額	最終年度 決算(見込)額
1	台湾誘客促進強化事業	タイガーエア台湾及び現地旅行会社に対し、運航経費や旅行商品造成費への支援を行うほか、各種プロモーションを実施する。	360,394	311,611	
2	重点市場における誘客拡大事業	重点市場のタイと欧州において、冬季コンテンツや食とアート等のテーマを中心に、地域特性に応じた効果的な情報発信を行う。	13,918	27,587	
3	冬季誘客に向けた情報発信事業	雪国ならではの食・文化やスキー場及びスノーアクティビティの魅力、冬季誘客が期待できる国・地域に対しSNSやメディアを通じて発信する。	29,208	21,718	
4					
5					
その他合計 (件)					
財源内訳		左の説明	403,520	360,916	0
国庫補助金		新しい地方経済・生活環境創生交付金	16,240	22,098	
県債					
その他		地域活性化基金、諸収入	300,017	17	
一般財源			87,263	338,801	0

3 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

【指標Ⅰ】

指標名	海外向けSNSフォロワー数(人)【業績指標】										
指標式	海外向けに情報発信を行っているSNSフォロワー数の合計										
出典	誘客推進課調べ										
把握時期	翌年度4月										
年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
目標a							160,294	171,594			
実績b					136,345	149,094	185,603				
b/a							115.8%	0.0%			

【指標Ⅱ】

指標名											
指標式											
出典											
把握時期											
年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
目標a											
実績b											
b/a											

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することができない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

4 中間評価

(1)必要性(現状の課題に照らした妥当性)

判定	b	理由	客室数の多い大規模施設が少なく中小規模施設が多い本県の実情や、世界的な旅行トレンドが団体から個人へシフトしている現状を踏まえた個人旅行者の需要を取り込んでいく必要がある。
----	---	----	---

(判定基準) a: 必要性が高い b: 一定の必要性がある c: 必要性が低い

(2)有効性(事業目標の達成状況)

※指標が設定できない場合は、「b」判定以下とする。
※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定	a	理由	
----	---	----	--

(判定基準) a: 有効性が高い(達成率の全てが100.0%以上) b: 一定の有効性がある(a, c以外の場合) c: 有効性が低い(達成率が80.0%未満)

(3)効率性(限られた予算で効果を発揮するために努力した内容)

判定	b	理由	航空会社・旅行会社との連携事業で台湾チャーター便の利用促進を図り搭乗率9割を確保したほか、仙台空港等の近隣空港直行便を利用したツアーを造成する海外旅行会社への本県ツアー造成の働きかけにより、隣県起点の観光誘客の強化を図った。
----	---	----	--

(判定基準) a: 効率性が高い b: 一定の効率性がある c: 効率性が低い

(4)総合評価

判定	B	(前 ※回 参 考 の 結 果)	
----	---	------------------------------------	--

【総合評価の判定基準】

- 「A」: 「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点全て「a」判定のもの
- 「B」: 「A」、「C」以外の判定のもの
- 「C」: 「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点全て「c」判定のもの

5 課題と今後の対応方針

(1)事業推進上の課題

台湾チャーター便の日本人利用率が低く、アウトバウンド需要が確保できていない。また、本県に來訪する外国人旅行者の半数が利用する仙台空港からの旅行者の取り込みが不十分である。		
---	--	--

(2)今後の対応方針

台湾チャーター便の運航継続や直行便を利用した誘客拡大を図るほか、個人客の割合が高く、昨年12月より仙台便が就航し東北への旅行者が増加している香港を新たに重点市場として位置付け、観光アンバサダーを通じた情報発信や、メディアの招請等の取組を強化することにより誘客拡大を図る。 取組の際は、マーケティング戦略室と連携しながらターゲットを定め、ターゲットに届く情報発信を行う。		
---	--	--

6 事後評価

(1)有効性(事業目標の達成状況)

※指標が設定できない場合は、「b」判定以下とする。
※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定		理由	
----	--	----	--

(判定基準) a: 有効性が高い(達成率の全てが100.0%以上) b: 一定の有効性がある(a, c以外の場合) c: 有効性が低い(達成率が80.0%未満)

(2)効率性(限られた予算で効果を発揮するために努力した内容)

判定		理由	
----	--	----	--

(判定基準) a: 効率性が高い b: 一定の効率性がある c: 効率性が低い

(3)総合評価

判定		(前 ※回 参 考 の 結 果)	
----	--	------------------------------------	--

【総合評価の判定基準】

- 「A」: 「有効性」、「効率性」の観点全て「a」判定のもの
- 「B」: 「A」、「C」以外の判定のもの
- 「C」: 「有効性」、「効率性」の観点全て「c」判定のもの

7 類似事業の企画立案に当たっての課題

--	--	--

施策評価（令和7年度）

戦略3 観光・交流戦略			
目指す姿3 文化芸術の力による魅力ある地域の創生			
幹事部局名	観光文化スポーツ部	担当課名	文化振興課
評価者	観光文化スポーツ部長	評価確定日	令和7年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

秋田の文化芸術に対する若者等の関心が高まり、次の世代の担い手が確保されることにより、地域の伝統芸能等が維持・継承された魅力的でにぎわいのある地域の実現を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①～③】 文化事業への来場者数(人)	目標			135,000	270,000	360,000	455,000	112.0%	4	
		実績	450,445	54,435	277,888	523,376	403,173				
	出典:県調べ	達成率			205.8%	193.8%	112.0%				
②	【施策の方向性①～③】 あきた芸術劇場で開催される大 規模イベント・興行数(件)	目標			42	42	42	42	392.9%	4	
		実績	—	—	98	198	165				
	出典:県調べ	達成率			233.3%	471.4%	392.9%				

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 \geq 100% 3点: 100% $>$ 達成率 \geq 90% 2点: 90% $>$ 達成率 \geq 80%
1点: 80% $>$ 達成率 \geq 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
4.00 (a 相当)	4点 × 2個 = 8点 1点 × 0個 = 0点
	3点 × 0個 = 0点 0点 × 0個 = 0点
	2点 × 0個 = 0点
	合計 8点 ÷ 2個 (判明済み指標) = 4.00

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① あきた芸術劇場を核とした文化芸術の発信とにぎわいづくり】

- あきた芸術劇場ミルハスにおいて、県主催事業として多様なジャンルの公演等を開催したほか、集客力のあるアーティストやコンベンション等を誘致し、文化芸術の鑑賞の機会を提供するとともに、地域のにぎわい創出につなげた（大規模イベント・興行数165件）。
- 県出身の実力派音楽家と若手音楽家等によるコンサート（来場者1,327人）を開催し、質の高い音楽の鑑賞機会を提供するとともに、施設の一層の認知度向上を図った。
- あきた文化情報サイト「ブンカDEゲンキ」及びFacebookにおいて、県主催事業やあきた文化交流発信センターのイベント情報等を随時発信した。「ブンカDEゲンキ」のページビュー数は112,929回、Facebookのリーチ数は9,326回、YouTubeチャンネル再生回数は114,866回であった。

【施策の方向性② 文化芸術活動の促進と次代を担う人材の確保・育成】

- 「芸術選奨」（3人）、「ふるさと文化賞」（1人）を贈り、優れた活動を顕彰した。また、「青少年音楽コンクール」（参加者延べ141人）を開催したほか、文芸活動の普及、振興を目的として広く県民から文芸作品を公募し、受賞作品を掲載した作品集「あきたの文芸」を刊行した（応募作品225点）。
- 「アーツアーツサポートプログラム」では、文化芸術活動の成果として美術作品や演奏等の発表を希望する若手アーティストを募り、展覧会、演奏会、ダンス公演の開催を支援（アーティスト4人、来場者716人）した。
- 県北、県央、県南の各地域において小中高生及び一般県民（参加者645人）を対象に行った音楽活性化アウトリーチでは、プロの演奏家による演奏会や吹奏楽部等に対する技術指導を行った。また、美術活性化アウトリーチでは、県央地域において小中高生等（参加者168人）を対象に、美術作品の鑑賞、解説、ワークショップ等により美術への関心や理解を促す講義を行った。

【施策の方向性③ 文化芸術を通じた交流人口・関係人口の拡大】

- 国内外から優れた音楽家を招いた「秋田・潟上国際音楽祭」（来場者1,292人）、秋田の伝統行事を体験できる「あきた無形民俗文化財万博」（来場者858人）を開催し、県内外からの多くの来場者に本県文化の魅力を発信した。
- 県内の文化団体が行う集客力が高く交流人口拡大に資する取組に対して助成を行った（6件）。
- 県内を代表する劇団わらび座と連携し、県外公演において、伝統芸能の披露や資料展示、秋田の文化の魅力を紹介するパンフレットの配布（20万部）等を行ったほか、ミルハスにおいて東北の祭り等をモチーフとしたノンバーバル（非言語型）のミュージカル（来場者4,452人）を上演した。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
a	<p>成果指標の達成率を基にした定量的評価は4.00で「a相当」であることから、総合評価は「a」とする。</p> <p>【定性的評価として考慮した点】</p>

4 県民意識調査の結果

質問文		国内外に秋田の文化芸術の魅力が伝えられている。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度	肯定的意見	16.6%	16.5%	16.0%		△0.5
	十分 (5点)	1.8%	2.1%	2.5%		+0.4
	おおむね十分 (4点)	14.8%	14.4%	13.5%		△0.9
	ふつう (3点)	41.9%	32.1%	37.0%		+4.9
	否定的意見	32.0%	42.8%	37.0%		△5.8
	やや不十分 (2点)	20.2%	27.2%	24.8%		△2.4
	不十分 (1点)	11.8%	15.6%	12.2%		△3.4
	わからない・無回答	9.5%	8.5%	9.9%		+1.4
	平均点	2.72	2.56	2.66		+0.10

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミルハスは開館から3年が経過し、施設や設備点検などのメンテナンス日も増加する中で、利用者数や稼働率を高水準に維持していく必要がある。 ○ 各種SNSや動画配信サイトのトレンドを踏まえた訴求力の高い情報発信が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミルハスを適切かつ効率的に管理運営するとともに、優れた音響特性などを最大限にPRし、質が高く集客力のある公演等を開催・誘致していく。 ○ 公式SNSやYouTubeチャンネルを活用した積極的な情報発信を行うほか、文化芸術活動を行う団体自らによる情報発信を促進するための支援を行っていく。
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化芸術活動を行う個人や団体が固定化しており、世代や活動地域にも偏りが生じている。 ○ 人口減少や高齢化が進行する中、各地域で文化芸術活動の担い手が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 優れた作品や活動に対する顕彰、文化団体が行う活動への助成などにより、幅広い世代や地域の県民が文化芸術活動に取り組みやすい環境づくりを進める。 ○ 東京藝術大学や秋田公立美術大学と連携し、音楽や美術の分野でのアウトリーチ事業の実施を通じて質の高い文化芸術に触れる機会を創出することにより、将来の文化芸術を担う若手の育成を図る。
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流人口や関係人口の拡大を図る上で、集客力の高い取組を行うことが可能な文化団体等が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流人口や関係人口の拡大に資する取組に対して引き続き支援を行うとともに、取組事例の共有により、集客力の高い取組を行うことができる文化団体等の掘り起こしを図る。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「 」をもって妥当とする。

事業評価調査(目的設定、中間評価、事後評価) (評価年度:令和7年度)

政策	3 観光・交流戦略			
目指す姿	3 文化芸術の力による魅力ある地域の創生			
施策の方向性	② 文化芸術活動の促進と次代を担う人材の確保・育成			
事業名	文化の継承・創造推進事業	事業年度	H8	年度～ 年度
部局名	観光文化スポーツ部	課室名	文化振興課	
チーム名	読書活動・文化芸術推進チーム			

1 事業実施の背景及び目的

本県の文化振興に向け、民間団体が実施する事業に対する支援や、担い手の育成に取り組むことにより、文化芸術活動の基盤を整え、その活発化、安定化を図る。

2 事業概要及び財源

(単位:千円)

	事業内訳	概要	令和7年度 予算額	令和6年度 決算(見込)額	最終年度 決算(見込)額
1	文化振興事業	青少年音楽コンクール、あきたの文芸、芸術選奨など顕彰・発表機会の創出、芸術文化振興基金による活動助成	23,287	18,930	
2	あきた文化交流発信センター運営事業	県民が日常的に文化に触れる機会を増やすため、文化団体が気軽に発表し、県民が鑑賞できる場として設置した「あきた文化交流発信センター」の運営	19,293	19,293	
3	あきた文化振興ビジョン策定事業	文化芸術推進協議会による第3期あきた文化振興ビジョン(R5～7)の進行管理及び次期計画策定に向けた検討	641	201	
4					
5					
その他合計 (件)					
財源内訳			43,221	38,424	0
左の説明					
国庫補助金					
県債					
その他			15,977	10,962	
一般財源			27,244	27,462	0

3 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

【指標Ⅰ】

指標名	文化振興事業への参加者数(青少年音楽コンクール、あきたの文芸)【成果指標】									
指標式	文化振興事業への参加者数(青少年音楽コンクール、あきたの文芸)									
出典	文化振興課調べ									
把握時期	翌年度4月									
年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
目標a						400	400	400	400	400
実績b			461	416	389	391	366			
b/a						97.8%	91.5%	0.0%	0.0%	0.0%

【指標Ⅱ】

指標名	あきた文化情報サイトページビュー数(PV)【成果指標】									
指標式	あきた文化情報サイトページビュー数									
出典	文化振興課調べ									
把握時期	翌年度4月									
年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
目標a					102,200	110,960	120,048	128,480	128,480	128,480
実績b					97,440	111,250	112,929			
b/a					95.3%	100.3%	94.1%	0.0%	0.0%	0.0%

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することができない理由

--

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

--

4 中間評価

(1) 必要性(現状の課題に照らした妥当性)

判定	a	理由	文化振興施策を推進するためには、顕彰や発表機会の創出のほか、(一社)秋田県芸術文化協会やその加盟市町村芸術文化協会等への実際的な支援により、世代を問わず多くの県民が文化芸術活動に取り組みやすい環境を整備し、担い手の確保・育成につなげていく必要がある。
----	---	----	---

(2) 有効性(事業目標の達成状況)

※指標が設定できない場合は、「b」判定以下とする。
 ※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定	b	理由	
----	---	----	--

(判定基準)a:有効性が高い(達成率の全てが100.0%以上) b:一定の有効性がある(a、c以外の場合) c:有効性が低い(達成率が80.0%未満)

(3) 効率性(限られた予算で効果を発揮するために努力した内容)

判定	b	理由	広報物の自主作成のほか、行政機関や報道機関、民間団体への情報提供やウェブサイトへの掲載等により、個別事業の周知を図った。
----	---	----	--

(判定基準)a:効率性が高い b:一定の効率性がある c:効率性が低い

(4) 総合評価

判定	B	(※前回参考結果)	B
----	---	-----------	---

【総合評価の判定基準】

- 「A」:「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点全て「a」判定のもの
- 「B」:「A」、「C」以外の判定のもの
- 「C」:「必要性」、「有効性」、「効率性」の観点全て「c」判定のもの

5 課題と今後の対応方針

(1) 事業推進上の課題

令和6年度の県民意識調査によると、文化芸術を鑑賞している人の割合は約57%と目標値の55%を上回っているものの、文化芸術活動を行っている人の割合は約21%と目標値の38%を下回っている状況にある。		
--	--	--

(2) 今後の対応方針

県民が気軽に文化芸術に親しみ、文化芸術活動を行えるよう、「第4期あきた文化振興ビジョン」の策定に当たっては、外部有識者や関係団体等による協議会で課題と対策を整理し、実効的な施策の立案に結び付けていく。		
--	--	--

6 事後評価

(1) 有効性(事業目標の達成状況)

※指標が設定できない場合は、「b」判定以下とする。
 ※二つの指標を設定し、達成率100.0%未満の指標がある場合は、達成率の平均値により判定する。

判定		理由	
----	--	----	--

(判定基準)a:有効性が高い(達成率の全てが100.0%以上) b:一定の有効性がある(a、c以外の場合) c:有効性が低い(達成率が80.0%未満)

(2) 効率性(限られた予算で効果を発揮するために努力した内容)

判定		理由	
----	--	----	--

(判定基準)a:効率性が高い b:一定の効率性がある c:効率性が低い

(3) 総合評価

判定		(※前回参考結果)	
----	--	-----------	--

【総合評価の判定基準】

- 「A」:「有効性」、「効率性」の観点全て「a」判定のもの
- 「B」:「A」、「C」以外の判定のもの
- 「C」:「有効性」、「効率性」の観点全て「c」判定のもの

7 類似事業の企画立案に当たっての課題

--	--	--